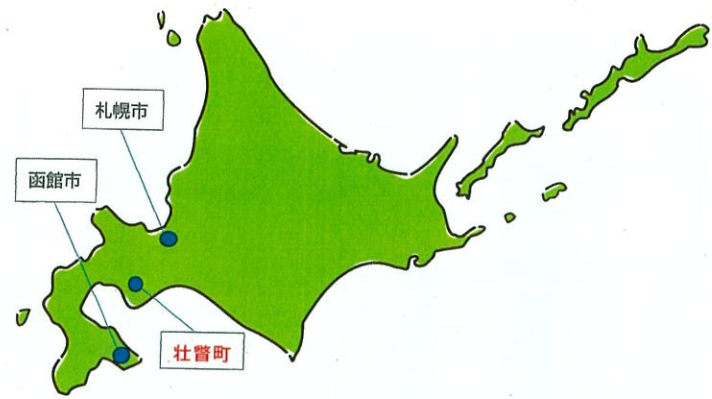


終わりになき図書館ジャーニー vol. 3



壮瞥町 地域交流センター図書室

「壮瞥」って読み書きできますか？つい最近読めるようになりました。「そうべつ」と読みます。まだ「瞥」という字が書けません。アイヌ語で「滝の川」を意味する「ソーベツ」から転化し、「壮瞥」となったそうです。

有珠山(うすざん)、昭和新山、洞爺湖(とうやこ)に囲まれた自然豊かな町です。伊達紋別から壮瞥を経由して倶知安(くっちゃん)まで JR 胆振線(いぶりせん)が走っていましたが、1986(昭和 61)年廃止されました。でも、伊達紋別駅からバスに乗り換えて壮瞥へ行くことができます。

当初、そのバスルートで行く予定だったのが、豊浦町の友人が豊浦の温泉に浸かっている加藤を、洞爺湖町立あぶた読書の家を経由して壮瞥町地域交流センター図書室までクルマで乗せて行ってくれました。本当にありがたい。帰りは伊達市図書館まで乗せてもらったので、魔法のようなスピードに呆気にとられました。

壮瞥町は、2024年3月現在人口は約2400人。

地域交流センター山美湖(やまびこ)内に図書室が教育委員会と共に入っています。なんて景色の良い環境でしょう！有珠山と昭和新山がすぐ目の前に見え、洞爺湖まで歩いて20分ほど。天気が抜群に良かったので遠く羊蹄山(ようていざん)を眺めることもできました。

こちらのボランティアさんは、定期的に図書室展示の装飾、毎月開催するイベントの補助など。最近のイベントでは道端のマーガレットを摘んできてもらい、花瓶に飾ってたりと、細かいところに気が利く方ばかりだそうです。

そして、図書室の外窓と廊下のガラスに昭和新山が爆発した当時の様子を見事なガラスアートで描いています。

ボランティアさんの印象がとても強く、館内の雰囲気はとても明るいです。初対面の私に「今度何か本の話をしてくださいよ！」と気軽に話しかけてくるほど。

入館して左奥の壁に絵本の表紙がずらっと並び、とてもインパクトあります。落下したら危険なので書架にピアノ線のようなコードを付け、来館者の安全を確保しています。

施設入口に図書室へ誘導するために書籍を置いて、「この施設に図書室があるので是非立ち寄ってね」というちょっとした工夫も。

火山に対する意識はとても高く、関連書をなるべく所蔵できるよう心がけていました。

2000(平成 12)年以降、有珠山が噴火していないのを町民は気にしています。前に行った上富良野町でも、いつ十勝岳は噴火するんだ？と気にしていました。北海道にはいつどこで噴火してもおかしくない火山ばかりです。

壮瞥町で2つ加筆しておきたいこと。昭和の大横綱、北の湖の出身地！

もう一つは昭和新山国際雪合戦が毎年 2 月に行われています。国内各地だけでなく海外からも参戦。1989(平成元)年に始まった本気度 100%の雪合戦です。

公式 HP によると、「国境を越えたボードレス・スポーツとして歴史を刻みつつある『YUKIGASSEN』。現在 10 カ国で大会・イベントが行われ、その競技人口は世界へと広がりを見せている。 <https://www.yukigassen.jp>

チームは9名(出場は7名)の選手と1名の監督により編成。強い精神力と瞬時の状況判断力、そして巧みな戦術を生み出す知力が求められる。敵の雪球から身を守るのは要砦シェルターと手に握る雪球のみ。シェルターに身を潜め、攻撃のチャンスをうかがう。敵陣のフラッグを奪うもよし、雪球で敵を倒し判定に持ち込むのもよし。白銀のコートには筋書きのない戦いとドラマが待っている！」やたら熱いですね。

2024 年 3 月訪問

加藤 重男